宮崎医科大学における入試改革の効果について

－学部に対する適応と資質の観点から－

豊田　秀樹・柳井　晴夫・美原　　恒・井上　勝平

平成２年度から導入された「分離分割」方式に呼応し，宮崎医科大学では医師としての適性のある学生を選抜するために入試改革を行った。

医学生は卒業後，医師として各種医療職の人たちとチームを組み，チームのリーダーとして医療に当たることが期待されている。このため宮崎医科大学では，個性豊かな人間味あふれる学生を選抜するために，入試改革の柱として，多様な入試方法を導入した。入試方法としては「面接試験」「小論文による試験」「調査書による試験」「学力試験」を採用している。

一方，大学入試センターでは，柳井，前川，鈴木他（1992）が，大学の各専門分野の教員及び学生を対象とした全国調査を行い，多様な専門分野に進学した学生が，それぞれの専門分野で適応していくために必要とされる資質を明らかにしている。

本論文では，宮崎医科大学の入試改革における多様化入試前と後に入学した学生に焦点を当て，学生間の特徴を比較する。調査には，柳井，前川，鈴木他（1992）の学生版を用い，特に，専門課程における適応状態と資質の形成状態の観点から比較を行った。

調査結果からの主要な知見は２つある。

(1)　適応と資質の形成に関して，多様化入試後に入学した学生の方が望ましい状態にあった。

(2)　多様化入試以後に入学した学生の中では「小論文による試験」「調査書による試験」で入学した学生が特に望ましい状態にあった。

さまざまな特徴を持つ入学者は，その後の大学生活において互いに助け合い，刺激しあって，その学年の，ひいては大学全体の活性化をもたらす原動力になりうることを，本研究の結果は示している。また，同時に，学生が専門分野において，より良く適応するためには，どのような資質が重要であるかを明らかにする必要性を示唆している。